

# ヨハネ・ノート

札幌コダーイ合唱団

第2号

2005.01.20 発行

## [NBA2a] (BWV2) 福音史家

序曲が終わるとただちに福音史家が聖書の言葉（ヨハネ福音書第18節-1）を語り始めます。

バッハの時代には、音型による情景描写というのは一般的な手法でした。「ケデロンの谷を横切り、とあるオリーブ園に入って行かれました」の

ところでは Kidron の言葉が低い位置におかれ、「谷」であることを描いています。

人間相互の位置関係も同様です。尊い存在である Jesus は高い位置に、弟子たちはそれより低い位置におかれています。



Je - sus ging mit sei - nen Jün - gern ü - ber den Bach Kid - ron dawar ein Gar - ten,

圧巻は Juda の描き方です。「裏切り者」であることを、まずコンティヌオが減7の和音（邪悪な

雰囲気をもっている）で示し、旋律の動きにも緊張がみなぎっています。



Ju - das a - ber der ihn ver - riet,

「裏切り者のユダは」

これ以降は細かな説明は省略しますが、バッハのレチタティーヴォは実に表現に富んでおり、受難曲の物語性を的確に描いています。この後、イ

エスを捕らえようと迫る兵士たちに向かって、イエスは「誰を捜しているのか？」と問いかけます。これに対して兵士たちは答えます。

## [NBA2b] (BWV3) 合唱「イエスを、ナザレのイエスを」



Je - sum, Je - sum, Je - sum von Na - za - reth,

ナザレとはイエスの出身地です。人を呼ぶときに地名で区別したのでしょう。ヴァイオリンとフルートの音型はイエスに迫る人々のざわめきのようです。ヘルムート・リリング（ドイツの有名なバッハ演奏家）は合唱の1拍目が休符であることを、兵士たちの戸惑いや懼れという意味に解釈しているようです。

ドイツ語の発音ではアクセントと無アクセントのコントラストを明確にすることが大切です。Je は力強く、sum は弱めに歌います。またアクセントのある拍は子音を強調（幾分長め）にすると効果的です。J は記譜の直前に先取りします。



J - e - sum, J - e - sum,

## [NBA3] (BWV7) コラール「ああ、大いなる愛」

聖書の記述はその場のドラマを描きますが、コラールが語る内容は時間を越えたところに位置しています。つまり、まずはその場に居合わせる人たちの心情を、同時に現代の私たちの共感を、さらには普遍的なキリスト者の信仰告白を描いているのです。

一見単純な4声の合唱曲ですが、バッハは各所でテキストの意味を具体的に音で描いています。（第4-6小節バス「苦難の道を歩まれる」→半音階的下降。第8-9小節アルト「楽しみと喜び」→弾む動き。第10小節バス「苦しみをお受けになる」→身をよじるような音型、など）



ge - bracht auf die - se Mar - ter - stra - ße!



Lust und Fre - den,



und du mußt lei - den.